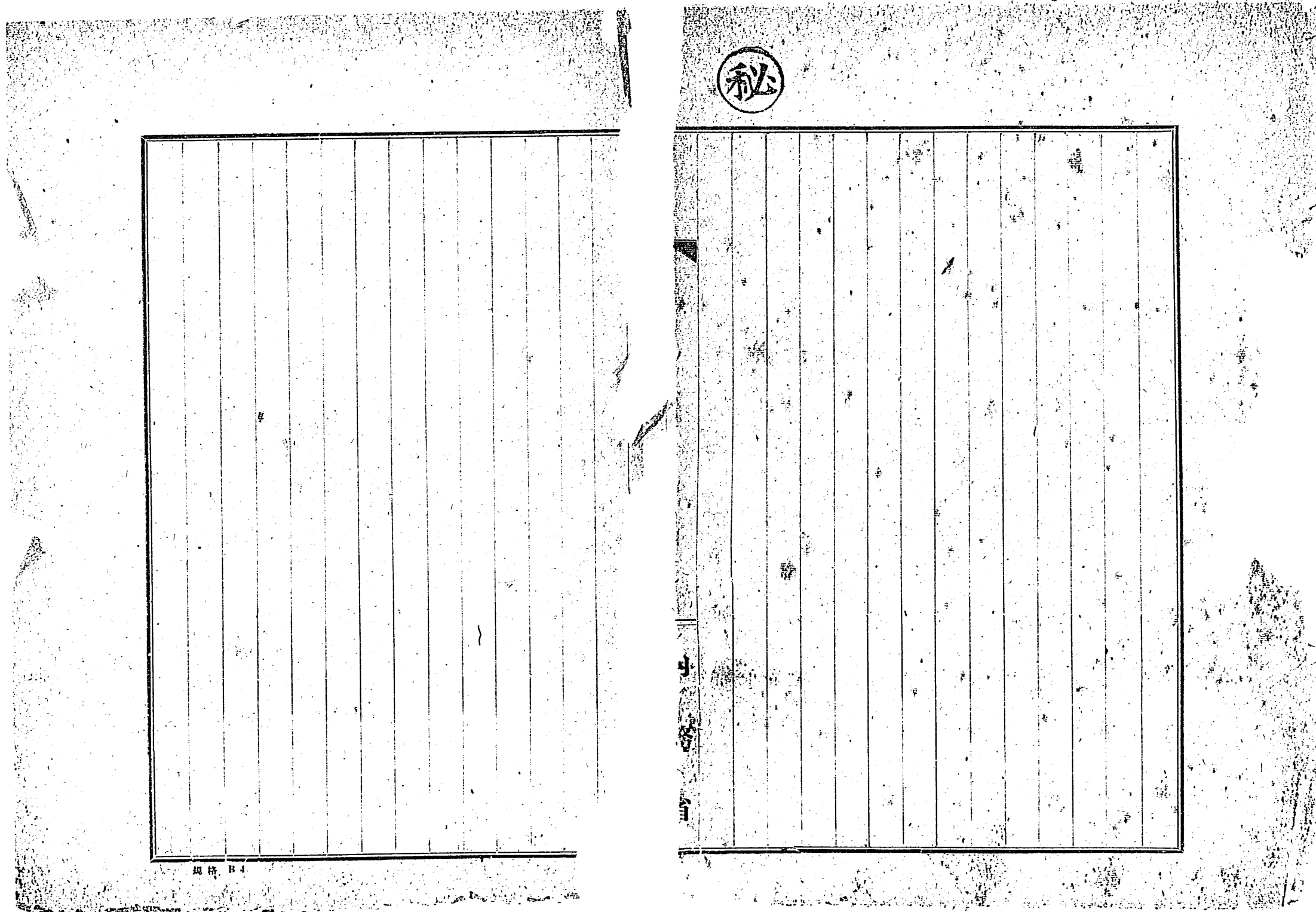
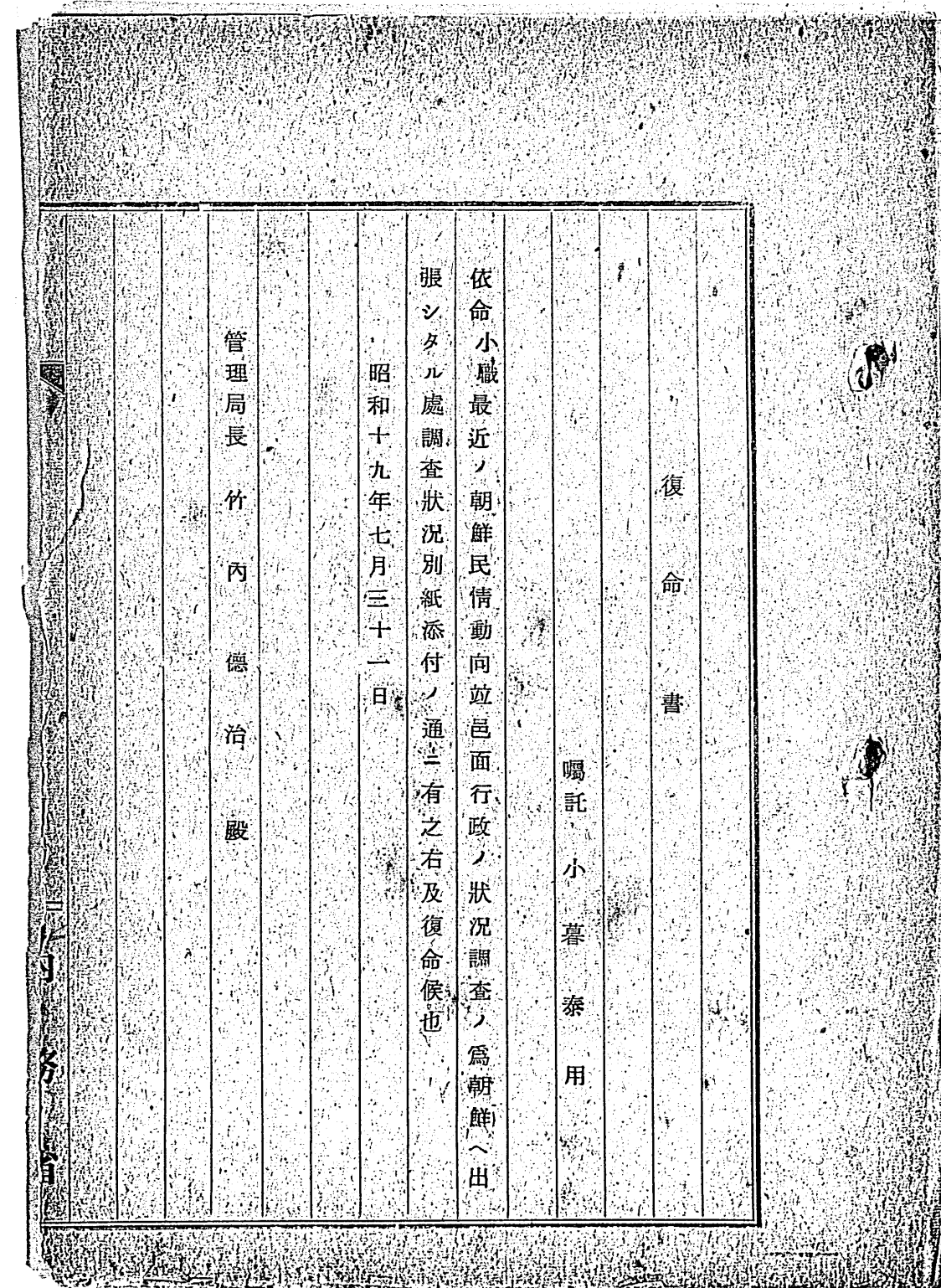




REEL No. A-0503

0248

アジア歴史資料センター



目次	
一	戦時下朝鮮ニ於ケル民心ノ趨勢
二	殊ニ知識階級ノ動向ヲ關スル忌憚ナキ意見
三	都市及農村ニ於ケル食糧事情
四	今次在勤文官加俸令改正ノ官界並ニ民間ニ及シタル影響
五	第一線行政ノ實情
六	殊ニ府、邑、面ニ於ケル行政滲透ノ現状如何
七	私立専門學校等整備ノ知識階級ニ及シタル影響
八	内地移住勞務者送出家庭ノ實狀
九	朝鮮内ニ於ケル勞務規制ノ狀況並ニ學校報國隊ノ活動狀況如何
十	以上

内務省

一、戦時下朝鮮ニ於ケル民心ノ趨勢

殊ニ知識階級ノ動向ニ關スル忌憚ナキ意見

戦時下朝鮮ニ於ケル民心ノ趨勢ハ大体平穩ト見ルベキモノデア
ツテ、往時大正八年當時ト異ナリ獨立ヲ夢ル者ナク官民共ニ等シ
ク皇國臣民トシテ内地人ト協力シテ克服セントスル傾向ニアリ、
知識階級ト雖モ同様ニシテ確固タル自主獨立ノ成算ナク寧ロ米英
ニ依存スル獨立ハ今ノ現狀ヨリ必ズシモ良キモノト斷ジ難ク結局
日本人トシテ内地人ト一致團結シテ時局ヲ克服セントスル傾向ニ
アリ

而シテ大イナル戦ヒニ直面シテ朝鮮ニ在ル二千五百萬ノ同胞ハ
聖ナル皇民トシテ齊シテ立ツテ一億ノ一環トシテノ戦ヒヲ闘ヒツ
ツアル、滿洲事變以來「内鮮一体」ト云フ言葉ガ言ハレテカラ既
二十年ノ歲月ガ過ギタノデアルガ、今ヤサウシタ言葉ガ不必要ナ
程彼等ノ戦ヒハ大キナ熱情ト眞摯ナ努力トニ依ツテ其ノ生活ノ裡

内務省

ニ行ハレテ居ル

ソウシテ愈々創氏制モ實施サレ、徴兵制モ實施サレ、學徒ノ動
員モ出陣モ實施サレタ、劔ヲ持チ銃ヲ執ツテ内地人ト共ニ苛烈ナ
ル第一線ニモ立チ名譽アル皇民トシテ生キ拔ク姿ハ内地モ朝鮮モ
殊更ナ區別ヲスル要モナイ程ノモノデアアル

大東亞戦争ヲ勝チ拔キ太イナル皇恩ヲ八紘ニ光被サセル爲ニハ
、然シ其ノ戦ヒハ容易ナモノデハナイ、ソシテ其ノ戦ヒガ容易ナ
モノデハナイ丈ニ第一線ト云ハズ銃後ト云ハズ其ノ二ツノモノハ
異ナツタ二ツノモノデハナク苦ニ充テ生命ヲ賭シテ戦フ困苦デナ
ケレバナラナイ、之レガ現實ニ於ケル朝鮮ノ實狀デアアル

此ノ現狀ハ言葉ダケデハナイ、彼等ハ皇民トシテノ生活ニ深ク
徹スル其ノ姿ガ今ヤ男ト云ハズ女ト云ハズ老イタルモ若キモ唯ヒ
タムキニ突キ進ム唯一ノ道デアアルモノト認識シツツアル現狀デア
ル、ソウシテ此ノ現狀ハ形ノ上カラノミデナク精神的ナ内容ニ迄

到達シツツ比ヒナキ日本の生活ノ中ニ於テ、戰フ爲ニ大東亞戰
争ヲ勝チ拔ク爲ニ彼等ハ先ツ生活ト戰ツテ居ル、古イ朝鮮式生
活様式ヲ捨テテ新ナル生活ノ形ガ激シイ勢デ日本化サレテ行クノ
デアツタ、ソシテ生活ノ鍊成ト云フコトガ今日ノ朝鮮人男女老幼
ニ課セラレタ大キナ命題トナツテ居ル、

以上ガ今日ノ朝鮮民心動向ノ一般的觀察デアラウ、然シ他方コ
レトハ正反對ニ悲觀的ナ見方モアル様デアル、即チ所謂思想的ナ
人々ヤ警察關係ノ方面ニ多ク抱カレテ居ル見方デアル、更ニ一部
ノ知識階級ニシテ民族思想運動ニ興味ヲ持ツ人々ガソレデア
兎ニ角朝鮮ニ於ケル民心ノ動向、思想界ノ傾向ガ最近特ニ大東
亞戰爭後激シイ變リ方ヲ見セテ居ルコトハ事實デアツテ、私ガ今
同朝鮮ニ出張シテ調査シタ個人的考ヘカラコレヲ結論トシテ端的
ニ言フナラバ朝鮮ノ思想傾向ハ一般ニ大衆的ニハ非常ニ良クナツ
テ居ル

内 務 省

然シ以上述べた様ニ多少悲觀的傾向ノアルコトモ事實デア
ル、故ニ私ハ今同現地ニ於テ各層階級人ト直接會ヒ語ツタ資料ト對
照シテ樂觀論ト悲觀論ト云フ二ツノ分野ニ於テ見タ儘、聞イタ儘
ノ事實ヲ纏メテ復命スルコトニスル、先ツ樂觀論ニ就テ最モ變遷
ノ激シイ傾向トシテハ朝鮮ニ於ケル宗教界ノ革新激變デアリ、民
族主義者並ニ共產主義者達ノ轉向激増ト質的向上デアリ、更ニ教
徒運動ノ勃興狀態デア
ル

ソレハ内外周知ノ如ク朝鮮ニ於ケル從來ノ宗教團體トシテ最モ
有力ナモノハ基督教ト天道教デアツタ、之等ノ宗教團體ハ在來宗
教的色彩ヨリモ政治的色彩ヲヨリ多ク持ツテ居タ、即チ基督教特
ニ長老教派ト天道教ハ恰カモ朝鮮ニ於ケル民族獨立運動ノ中核
ト爲シテ居ツタガ、今ヤ之等ガ大キナ轉換ヲ示シテ居ルコトデア
ル、全鮮ニ於テ五十萬以上ノ教徒ヲ占メ、而モ質的ニ最モ不良
デアツタ長老會教徒ハ、昭和十一年迄ハ神社不參拜運動ヲ起シ漸次

其ノ運動ハ全鮮ニ波及シタガ、昭和十六年大東亞戰爭ガ勃發シ無敵皇軍ノ赫々タル大勝利ガ展開サレルト同時ニ十七年ノ新春ヲ迎ヘ全鮮總會ニ於テ革新的ナ發展ヲナスベク國民的ナ聲明ヲ發シ、從來誤ツテキタ彼等ノ内部規定ヲ改正シ直ニコレヲ實踐ニ移サシガ爲ニ、日本のナ革新要項二十數項目ヲ發表シタノデアアル、又天道教ハ朝鮮ニ於ケル類似宗教團體トシテ最も有力ナルモノデアツテ、一時信徒百萬ヲ占ムル大キナ勢力ヲ有シテ大正八年遂ニ獨立萬歲事件ヲ主唱シタノデアツタガ、コレモ國家的ニ日本のナ宗教ニ向上セシメンガ爲ニ教義ヲ改正シ日本の革新ヲ行ヒ、今ヤ朝鮮ノ聯盟運動ニ順應シテ各々長老、天道ノ如キ國民聯盟ヲ組織シ全鮮カラノ各代表者ガ悉ク參加シテ等シク皇國臣民トシテ國旗ニ敬禮シ、皇國臣民ノ誓詞ヲ齊誦シ萬歲ヲ唱ヘ、神宮ニモ舉ツテ參拜スルトイフ誠ニ感激的ナ狀景ヲ展開シテキル現狀デアアル、

次ギニ轉向者ノ激増ト質的向上ノコトデアアルガ、大東亞戰爭後

内務省

ニ於ケル朝鮮人主義者ノ轉向者ハ數ニ於テ増加シ質ニ於テモ相當向上シタ傾向ヲ示シテキル、從來ハ多クノ轉向者中ニハ單ニ打算的表面ダケノ人モアツテ實際ニ於テハ仲々舊態ヲ脱ケ切レナイ者モ相當アツタノデアアル、然ルニ最近ニ於テハ朝鮮人ノ將來ハ日本人ニナリ切ラネバ救ハレル道ハ更ニナイト云フ確固タル信念ニ生キル眞實ノ轉向者ガ續々トシテ増加シ今ヤ相當數ニ達シテ居ル現狀デアアル

而シテ内地ト朝鮮トノ一体ハ歴史的ニ必然的ニ規定サレタ宿命命デアアルガ故ニ、世界ニ其ノ比類ヲ見ザル皇道精神ヲ研究スルコトニ依ツテ日本精神ニ生キ、日本ノ國體ニ徹シ、日常語ニ國語ヲ常用シナケレバナイド云フ劃期的ナ思想方向ガ決定サレ、斯クスル事ニ依ツテ始メテ朝鮮人ハ推進スルノデアアルト彼等多クノ轉向者ハ考ヘテ居ル、然ラズシテ若シモ假想サレタ内鮮一体論ニ逃悔シテ居ルナラバ必ズ數年ナラズシテ馬脚ヲ現ハシ其ノ時こそ

ハ朝鮮人が永遠ニ日本カラ見放サレル時デアルト迄ニ彼等轉向者達ノ考ヘハ徹底シテ來タ傾向ヲ示シテ居ル

コレト同時ニ彼等ノ内面的ナ革新ト共ニ多クノ眞面目ナ實踐運動ガ民間ニ於テ自發的ニ展開進シツツアル、即チ各地ニ於ケル教化運動ノ勃興デアアル、コレモ朝鮮ノ思想界ト民心ガ良クナリツツアル證左ト私ハ思フノデアアル、現在全鮮各地ニハ紘寮、大和塾、皇道會、學生塾、鍊成道場ノ如キ日本精神ヲ基調ニシテ集ル教化運動團體ガ相當多ク勃興シテ居ル

故ニ朝鮮ノ思想界ト民心ノ趨勢ニ就テハ上述ノ如キ極端ナル悲觀論モ無イデハナイガ、然シ以上ノ如ク一般大衆ハ何ト云ツテモ光輝アル皇道街道ヲ前進シテ居ルノデアツテ、大体ニ於テ、ソレハ非常ニ良クナツテ來タト云フ結論ヲ下シテモ間違ヒデハナク、又今後指導當局トシテモ更ニ研究調査ノ上適當ナ方法ヲ以テ押シ切ツテ行カネバナラヌト思フノデアアル

内務省

次○ニ悲觀論デアアルガ、時局ニ伴フ多少ノ苦痛其ノ他種々ノ不滿ノ爲ニ民心ノ一部ガ漸次惡化シツツアルト云フ見方モアリ得ルシ、亦斯ノ如キ傾向モ事實モアル、即チ大東亞戰爭ノ長期化ニ伴ツテ種々思想上惡波紋、精神ノ弛緩等ニ依リ彼等ノ中ニハ、特ニ知識階級並ニ有産層ノ一部ト民族主義者ノ中ニハ反戰、反官的ナ厭世傾向モアリ、早ク事變ガ終レバ良イ等ト考ヘテキル人モアル、更ニ最近ノ戰況ヲ悲觀シ日本ノ將來、統制經濟ノ將來ト云フモノニ對シテ相當流言蜚語ガ出テ來テキル地方モアル、即チ統制經濟ニ伴ツテ起ル影響、例ヘバ物價ガ高クテ困ルトカ、物資ノ缺乏、物資ノ自給ノ不圓滑、配給制度ノ不公平ト云フ様ナ私生活上ノ苦シミ、又食糧對策ガ旨ク行カヌト云フ様ナ不平不滿ノアルコトハ事實デアアル

特ニ地方ノ大地主ヤ都會地ノ富豪階級ノ人々ノ中ニハ日本ノ新體制、統制經濟ノ強化方針ハ共產理論ノ實現デハナイカ、統制ト

云フ名前ヲ借りテ實際ハ共產理論ヲ實踐スルノデハナイカト云フ一種ノ疑惑ト恐怖ヲ抱イテキル人モ相當ニアル様デアリ、又似而非ナル轉向者達ハ蘇聯ノ行キ方ガ最モ良イ、蘇聯ハ強イ、現在日本ノヤリ方ハ蘇聯ニヨク似テ來テキルノデハナイカ、故ニ共產理論ハ最モ正シイノデアルト云フ風ニ懷疑的ニ考ヘテ居ル人々モ相當ニ多クナツタコトハ事實デアル

斯ノ如ク考ヘテ居ル彼等ハ漸次日本ノ國力ヲ疑ヒ、或ハ朝鮮人ハ第一次世界大戰ノ時ニ印度ガ英國ニ關サレタ様ニ、日本政府ニ關サレテ居ルノデハナイカ、或ハ重慶政府ガ聲明シタ様ニ日本ハ長期戰ニ依ツテ經濟的ニ思想的ニ行キ詰ルノデハナイカト云フ様ナ全ク愚シイ考ヘ方ヲ抱イテ居ル人モ最近各地ニ相當多ク増加シテ來タコトハ事實デアル

更ニ民族主義者ノ一部ニハ内鮮一体ヘノ誤解モ相當アル様ニ見ユル節モアル、例ヘバ國語ノ獎勵ヲ以テ朝鮮語ノ否認ダト云フ誤

内務省

解モアリ、該文新聞ヲ統制シタ事ニ付テモ之レハ朝鮮文化ノ破壊デアルト考ヘテ居ル向モアル、之レハ過般京城ニ於テ開催サレタ各界代表者懇談會ノ席上ニ於テモ暗ニ關心ヲ有スル向モアツタノデアル、特ニ今後決戰ノ迅速利鈍ニ依ツテ彼等ノ思想モ相當變化ガアルモノト思ハレル、左ニ參考ノ爲京城ニ於ケル有志懇談會席上ニ於テ朝鮮人有志ノ希望スル所ノ要點ヲ記述スルコトニスル、尙出席者ハ左ノ通りデアル

日時 昭和十九年六月十七日午後五時

場所 京城府 白雲莊

出席者 荒木民政課長

小暮 嶋 託

坂 手 屬

毎日新報編輯局長

郷 寅 翼

社會部長

洪 鍾 仁

毎日新報社會次長 金村 承壽
 人文社代表 石田 耕造
 京城殖産經濟專門 玉岡 瑞珍
 學校教授兼生徒監 宗 教 家 李 重 宰
 京城辯護士會 姜 柄 順
 副會長 實業家 李 晟 煥

右記各有志カラ席上希望トシテ述ベラレタ要點ノ内主ナル項目ノミヲ擧グレバ

- (イ) 内地朝鮮間ノ人事ノ交流ヲ最モ頻繁ナラシメ傳統的ト見ルベキ一種特殊ナル朝鮮的官僚氣分ヲ速カニ改メ、上意下達、下意上通ヲ徹底セシムルコト
- (ロ) 末端政治ノ強化、即チ邑、面長ノ人物選定並ニ邑面職員ノ増員ト素質向上ヲ圖ルコト、之レニハ先ツ待遇方法ヲ講ズルコト

内務省

- (ハ) 勞務管理ノ改善、指導員ノ再錬成配置
- (ニ) 朝鮮獎學會ヲ改造スルコト、特ニ官僚化、取締化ノ如キコトヲ改メ専ラ指導教化ニ努メルコト
- (ホ) 内地ニ於ケル朝鮮人勞務者ノ多イ所ニハ各班ニ實力アル朝鮮人班長又ハ寮長ヲ速カニ配置スルコト
- (ヘ) 今後朝鮮ヨリ供出スル勞務者ハ從來ノ如キ募集又ハ官ノ強制斡旋方法ヲ改メ指名徵用制ヲ速カニ實施スルコト
- (ト) 今後朝鮮及朝鮮人問題ノ結論ニ付テ吾人ノ希望トスル所ハ綜合的ニ云ヘバ理窟ヨリモ情ト涙ヲ以テ解決シテ貰イタイ、
- (チ) 對朝鮮人問題ニ付テ、其ノ善惡ヲ問ハズ概括的ニ評論スルコトハ大ニ警戒スルコト、當局ガ餘リ監視シ過ギルコトヲ改メ或ル程度朝鮮人ヲ信頼シ朝鮮人ニ責任ヲ持タセルコト
- (リ) 配給制度ノ公平ヲ圖ルコト
- (ス) 朝鮮ニハ内地ト異ナル前官禮遇ト云フ特殊ノプロツクガア

ル、即チ高官高位ノ退職者ニ至ル鮮各地ノ特殊機關ノ實權ヲ與ヘテ居ルコトデアル、之レガ朝鮮統治ノ痛トナル場合ガ極メテ多イ、コレヲ速カニ改革スルコト

(四) 内鮮一体ノ完成ハ内鮮無差別ノ完成ニ始マル故ニ内地延長トシテ朝鮮人ニモ參政權ヲ與ヘヨ

(五) 併合當時ハ貴族並ニ上流階級ヲ相手ニ朝鮮統治ヲ行ヒ、次ギハ第二次的ニ公職者ヲ相手ニシテ政治ヲ行ツテ來タガ、然シ之レハ今ノ時勢ニハ既ニ遲ジ、今後ハ青年並ニ大衆ヲ相手トスル根本政策ヲ樹立セヨ

(六) 御世辭ヲ使フ者ノミヲ登用スル制度ヲ改メ本當ノ人物ヲ選ビ出スコト

二、都市及農村ニ於ケル食糧事情

朝鮮ニ於ケル都市及農村ノ食糧事情ハ相當深刻シモノアリ、其ノ實例トシテ朝鮮ニ旅行スル時汽車ノ窓ヨリ望ムルモ沿線ノ林野ニ於ケル松木ノ皮ヲ剥ギタルモノ相當見受クルコトガアルガ沿線ニアラザル深山ニハ尙多ク近キ將來ニ於テ朝鮮ノ松木ハ或ハ枯死スルノデハナイカト憂慮スル人達モ相當多イ様デアル、併合以來故寺内總督ヲ始メ歴代總督ハ朝鮮ノ山林行政ニ相當力癩ヲ入レタル結果最近ニ至リテハ朝鮮ノ林相モ稍良好ニナツテ來タガ昨今ノ食糧事情ニ依ル此ノ現象ハ實ニ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ

農村人及地方有志ノ忌憚ナキ意見ヲ調査シテ見ルト、從來大体ニ於テ朝鮮ハ食糧ノ自給自足不能ニ非ザルニ拘ラズ斯ル現象ヲ呈スルハ行政當局ノ其ノ措置宜シキヲ得ザルニ基因スル所多シト非難スル地方モアル、即チ配給、供出機構ノ不完全ハ勿論ノコト、先ツ其ノ衝ニ當ルモノノ情實又ハ實情ヲ知ラザル盲目的行政ノ結果ナリト彼等ハ非難シテ居ル

私ガ今回實地ニ於テ調査シテ見タ所カラ考ヘテ端的ニ云フト、

内務省

規格D4

部かひき免て
南金胎トシテ
昔昔班シ
大木末平坊と
ミヒハる万る
出アリレバ代
何ニ移ルルカ

朝鮮ノ食糧事情ハ都市ニ於テハ配給ノ面ガ、農村ニ於テハ供出ノ面ガ問題ノ全部ヲ浮彫シテキルト言ツテモ過言デハナイト思フ。勿論當局ノ食糧行政ノ行方トシテハ供出量ハ生産高ニ依ツテ決定サレルコトニハサツテ居ル、即チ生産高ヨリ農家人口ノ一人當リ一日何ガシノ消費引當量ヲ農家保有量トシテ爾餘ヲ供出量ト定メコレヲ農家ニ供出ヲ命ズルコトトシテキル。

然ルニ今日朝鮮ニ於ケル農業生産統計タルヤ大体ニ於テソレハ
前年農村振興時代ノ柱纂ナル統計數字ヲ基準トシテ居ルモノニシ
テ衆目ノ見ル所凡ソソレハ常ニ過大見積デアルト云フ事ニ一致シ
テ居ル、而モ斯ル過大ナル生産統計ノ下ニ於テ尙個々農家ノ收穫
高ヲ決定スル上ニ於テモ相當ノ努力ガ拂ハレテ居ルニ拘ラズ多ク
ハ無意識的ニ稀ニハ意識的ニ凹凸ヲ生ズル場合ガ相當ニ多イコト
モ事實デアール

斯ル基礎ニ於テ個々ノ農家ノ具體的供出量方定メラレル、ソウ

内務省

シテ此ノ供出令ハ文字通り至上命令トサレ供出ノ完遂ハ勸誘ヨリ
モ強壓強權ヲ加ヘテ強ヒラレル場合ガ極ノテ多イ狀態デアル

而モ朝鮮ノ農民ハ順朴從順デアツテ、ソコニハ涙クマシイ數々ノ實話實情モ多イ、或ハ明日ノ糧マデ供出セル者アリ或ハ彼等ノ何ヨリモ大切ナル農牛ヤ家屋ヤ家財道具等ヲ賣拂ツテ闇買ヲシテマデモ自己ノ供出割當數量ヲ完遂セル者モ居ル、從ツテ部落ニ於テ勢力ノアル者、卽チ所謂有力者其ノ他富豪權力者ヲ除イテハ出來以外ノ時ニ於ケル農村ノ食糧事情ハ殆ンド窮迫ノ狀態ニアル從ツテ農業者ニシテ尙朝飯粥ハ良イ方デ多クハ糊口ニ苦シミ自己ノ生産物ハ全部供出ニ献ゲ自分ハ大豆、小豆ノ葉ヤ草根木皮ニテ辛ジテ延命シ顔ハ腫レ上リ正ニ生不如死ノ慘狀ヲ呈シ空腹ノ爲メ働々事モ出來ズ寢テ居ル者モ尠クナイ狀態デアル

斯ノ如キ朝鮮農村ノ食糧事情ヨリシテ農民ハ食糧ハ生産シテモ
自ラハ喰ヘナイ故ニ農村ニハ増産意慾トコロカ寧ロ厭農思想ガ相

當濃厚デアリ生産物ヲ隠匿セントスル傾向ガ強クナツテ來タ
ソコテ供出督勵者ハ農家ヤ農家ノ周圍ヲ搜索シ炊事時ニ不意打
的ニ踏ミ込ミ炊事釜ヤ食物ヲ検査シ果テハ面、駐在所等ニ呼出シ
テ迅問スル等全ク朝鮮デハナクテハ見ルコトノ出來ナイ奇異ナル
現象ヲ彼所此所ニ露出シテ居ル、宜シク今後ハ農民ニ食糧ヲ保證
シ産業戰士トシテ所遇スルノガ急務デアリ之ガ結局増産ノ最モ有
力ナ途デアル様ニ思ハレル

一方籲ツテ都市ノ食糧事情ヲ見ルニ都市ニハ殆ンド完全ニ近イ
配給制度ガ實施サレ一人當リ一合四勺乃至二合三勺ノ配給ヲ大体
ニ於テ順調ニ受ケ満腹ノ程ハ期待シ得サルモ一應不安ハナイ状態
ニ在ル、一般ニ都市人ハ配給量ノ僅少ナルガ故ニ四六時中空腹感
ヲ訴ヘナガラモ尙定ツタ量ヲ殆ンド正確ニ配給ヲ受ケテ居ルノハ
農民ニシテ一日一合程度モ糧穀ヲ喰ヘナイノニ比ベテ見ル時ハ都
市人ハ幸福ト言ハサルヲ得ナイ、農民ノ倉ニハ糧穀ハナクトモ都

内務省

市ノ食堂ニハ猶何カノ食物ノ備ガアル實狀デアツテ、此ノ點内地
トハ正反對ノ現象ト言ハサルヲ得ナイ

而モ都市人ノ中デモ財力ニ餘裕ガアリ時局認識ノ足ラザル薄志
ノ徒ハ法網ヲ潜ツテ闇ニテ白米並ニ其ノ他ノ食料品ヲ買入レ一朝
鮮ニ於ケル白米一斗ノ闇價ハ六十圓前後ナリ自己ノ食生活ヲ充
實シテ居ル者モ相當ニ居ル、同ジ闇買ニシテモ農民ハ自己ノ供出
責任完遂ノ爲ニヤリ、都市人ハ自己ノ満腹ノ爲ニヤル、之レモ朝
鮮ナラデハ見ラレザル誠ニ奇異ナル對照デアル

要スルニ朝鮮ノ食糧事情ハ都市方面ノ非農家ハ殆ンド正確ニ近
イ所定量ノ配給ヲ受ケナガラ尙空腹ヲ訴ヘ、農村人ハ自ラ食糧ヲ
生産シ乍ラ猶出來秋以外ノ時ニ於テハ概シテ自家ノ食糧ニモ窮迫
シテ居ル實狀デアル

斯クテ都市ト謂ハズ農村ト謂ハズ互ニ顔ヲ合ハセレバ食物ノ話
デ都鄙ノ話題ハ殆ンド食物ニ關スルモノノミデアツテ全ク食ニカ

カケテハ紳士モ匹夫モナイ有様デアル、ココニ「民ハ食ヲ以テ天トナス」「衣食足ツテ禮儀ヲ知ル」ト云フ古訓如實ニ物語ツテ居ル

扱テ以上ノ如キ朝鮮ノ食糧事情ノ窮乏ノ原因ハ何シデアルカ、又之レヲ如何ニシテ是正スルカニ付テ考ヘテ見ルニ從來ノ耕地面積並ニ生産ニ關スル統計ハ不正確デアルニモ拘ラズ未ダ之レヲ以テ基礎トシテキルコト、次ギハ反當收穫ノ見積等ガ實情ニ副ハザル場合ガ多イコト、又農家ノ消費食糧ノ量ヲ過少ニ規制シタルコト、更ニ最近數年間凶作續キデアツタコト等デアラウト思ハレル而シテ農家ニ於ケル食糧ノ供出ハ敍上ノ弊ニ依ツテ供出數量過多ニ失シ中ニハ全生産量ヲ之レニ充テテモ尙足ラナイモノサヘアル、而モ供出數量ハ確保スベキデアルトノ見地ヨリ無理ニ近イ督勵ヲ加ヘル爲ニ農家ハ供出後翌日ヨリ殆ンド食糧ナキ状態デアリ而モ配給ハ必ズシモ其ノ翌日ヨリ支給セラレナイ爲殊ニ細農ノ困窮ハ甚ダシイ、又春窮期ニ於ケル還元制ノ特配ヲ受ケルニシテモ其ノ量極メテ少ナク一日一人當一合未滿ノ場合ガ多イ、故ニ此ノ際思ヒ切ツテ統計ヲ先ツ是正スルト其ニ農家一日消費食糧ヲ少クトモ一人當四合以上トシ、實情ニ依ツテ農家ノ食糧ヲ控除シタル後、殘餘ヲ全部供出セシムル様ニスルカ、又ハ生産食糧一切ヲ全面的ニ買上ゲ翌日ヨリ農家非農家ノ區別ナク一定量ノ配給ヲ行フカ、何方デモ急速ニ朝鮮ノ食糧事情ノ窮迫ヲ救ハナケレバナラヌモノト思フ

内務省

ソレカラ少シ話ガ横道ノ様ニ考ヘルガ朝鮮ニ於ケル食糧問題解決ニ對シ最モ密接ナル關係ヲ有スル問題ノ一ツトシテ昭和十九年度朝鮮米穀生産責任數量決定額ニ付テコレヲ檢討シテ見ルト即チ今年度ノ食糧生産責任量ハ

米	二千六百萬石
麥	一千六十三萬石

其他雜穀 九百三十萬石	
合計	四千五百九十三萬石
トナツテキルガ一体此ノ數量ハ如何ナル方法ニ依ツテ算出決定サ レタモノガ専門家デナイ私ガ僅カ三週間位ノ短時日ノ調査デハ其 ノ正否ヲ今直ニ確言スルコトハ出來ナイガ先ツ其ノ中ノ米二千六 百萬ニ付テ考ヘテ見ルト前古未會有ノ大豐作ト言ハレタ昭和十二 年ノ米作數字ヲ除イテハ朝鮮ノ米作生産史上ニ未ダ其ノ前例ノナ イ數字デアル	
即チ昭和十四年ノ千四百萬石ト云フ大凶作以後ニ於ケル朝鮮ノ 米生産高ヲ調査シテ見ルニ同十五年ノ二千百萬石、同十六年ノ二 千四百萬石、同十七年ノ千五百萬石、同十八年ノ千八百萬石デア ツテ其ノ五ヶ年間ノ平均收穫高ハ千八百四十萬石トナツテ居ル、 此ノ理由ハ近年朝鮮ノ氣候ハ連續的旱魃ノ多イ關係モアリ更ニ鮮 内ノ勞働力モ漸次減少シ、又化學肥料ノ不足等ガ其ノ原因デア ルモノト思ハレル	
然ラバ昭和十九年即チ今年度ノ米作ハ果シテ朝鮮ノ農業生産ノ 隘路ガ解消サレテ居ルカト云フニ決シテソウデハナイ、戦局ノ進 展ニ從ヒ今年度ヨリ實施サレル徵兵制ニ伴ヒ併セテ農村青壯年ノ 戦闘再配置等ガアリ、更ニ國內科學工業ノ擴充ニ因リ農業肥料生 産ノ減縮ハ必然デアルト想像スルニ於テハ例ヘ此ノ儘天候ガ順調 ニナツテモ二千六百萬石ト云フ米收穫ハ容易ナコトデハナイト考 ヘラレル、即チ過去五ヶ年間ノ平均收穫量千八百四十萬石ニ比ス レバ七百六十萬石ノ増加デアルカラ約四割ニ該當スル數量ガ増加 サレタノデアル	
モット詳シク言ヘバ過去五ヶ年間ニ平均收穫量十石ノ農家トス レバ四割増ノ十四石ガ其ノ生産責任量トナツタ譯デア ル、天候ノ 變調如何ニ拘ラズ同一條件ノ下ニ四割増産ト云フコトハ朝鮮農家 トシテハ甚シキ過重ノ負擔ト言ハザルヲ得ナイノデア ル、故ニ速	

内務省

規格D4

カニ此ノ數字ニ再檢討ヲスルカ、又ハ現下時局ニ鑑ミ此ノ二千六百萬石ト云フ數字ガ絶對的ニ國家ガ要請スル量デアレバ鮮内科學肥料不足ノ對策トシテ自給肥料ノ増産、適期施肥、施肥方法ノ適正化等ニ關スル根本策ノ確立、ソウシテ三百萬戸以上ノ農家ト十萬戸以上ノ地主ト數萬ノ指導者ガ打ツテ一丸トナツテ人生最高ノ努力ヲ傾注スル様仕向ケナケレバナイコトト信ズルノデア

ル
三、今次在勤文官加俸令改正ノ官界並ニ民間ニ及シタル影響

此ノ問題ニ付テ朝鮮人官吏及民間人ニ就テ調査シテ見ルト大略左ノ如キ現狀デア

即チ朝鮮人官吏ニ對スル加俸支給ニ付テハ

イ、内鮮一體ノ理念ヲ具現シタルモノニシテ寧ロ其ノ遲キニ失シタル憾アルモノ一層ノ責任感ト明朗性ヲ與ヘタリトナス者

内務省

ロ、戰局ノ推移ニ鑑ミ尖銳化シツツアル朝鮮民心ヲ緩和セント

スルコトヲ企シタル懷柔政策ナリト爲ス者

ハ、官界ニ於ケル内鮮人ノ全面的無差別化ハ優秀ナル内地人渡

鮮ヲ阻害シ内地人側ニ於ケル人的貧困ヲ來スベシト爲ス者

等ノ見方アリテイノ觀點ニ立ツモノハ當然ナリト爲スガ故ニ(ロ)

ノ見地ニ在ル者ハ政策ナリト見ルガ故ニ本制度ノ實施ハ朝鮮統治

上劃期的恩典ナルニモ拘ラス大ナル感銘ヲ與ヘザリシガ如シ、殊

ニ瞻目スベキハ該制度ガ一部上層官吏ニノミ其ノ恩典ニ浴セシメ

タル點ニシテ或ハ島國根性的ニシテ大國トシテノ雅量ニ缺クルモ

ノナリトシ、或ハ上ニ厚ク下ニ薄キハ親心ニ反スルモノナリト爲

シ、甚シキニ至ツテハ之等上層指導階級ヲ懷柔スルコトニ依ツテ

之等ヲ一般民衆ノ宣撫ニ利用セントスルモノナリト斷ズルモノサ

ヘアル

他方一般下級官吏ハ現下ノ如キ物價高ニ比シ著シク薄給ニシテ

殺人的ノ生活難ナルニ拘ラズ之ヲ默過シタルハ當局ノ企圖ニ他意アルベシトナシ眞劍ニ之ガ弊鑿討議ヲ敢ヘテ試ミル者モアル要スルニ本制度ハ朝鮮民衆ニ内鮮一体ノ理念ヲ制度的ニ實證具現セルモノトシテ受入レラレ朝鮮人官吏ヲシテ眞ノ帝國官吏トシテノ自覺ヲ喚起セシメ其ノ責任ノ重大ナルヲ感ゼシムルニ多大ナル貢獻ヲ爲シタルモ之ヲ一部ノ上層官吏ノ範圍ニ止メタルニ基因スル疑惑感ハ否定シ得ベカラサルモノアリト謂フベシ

更ニ此ノ問題ニ付テ朝鮮人民間有力者ノ忌憚ナキ意見ヲ調査シテ見ルニ、從來朝鮮人官吏ニハ加俸ヲ支給スベカラサルモノナルコトヲ理論的ニ説キ永年朝鮮人ノ深刻ナル反對心理ヲ抑制シ來リタルニ拘ラズ突然全ク同一率ノ加俸ヲ支給スルコトトナツタコトニ對シテハ先ツ驚キタルハ朝鮮人官吏自身デアツタデアラウ而シテ其ノ支給ガ一般的ニ非ズシテ一部分ニ過ギザル故ニ其ノ恩典ニ浴セサル階級ノ不平甚シク此ノ點ハ憂慮ニ堪ヘザルモノアリト見ヘル、即チ生活ニ餘裕ナキ判任官以下ニ支給セズ比較的の生活ノ安定ヲ得タル高等官ニノミ加俸ヲ支給スル結果高等官自身モ心中疑心ヲ抱クデアラウト論ズル人ガ多イ、其ノ理由トシテハ即チ戰後朝鮮人ノ高等官ノ數ヲ減ズルハ必然ナリトシテ内心疑ナキ能ハズ、又反面判任官以下ノ不平相當深刻ナル地方モアルガ此ノ點ハ相當注目ヲ要スル問題ト思フ、事實トシテ内地人ト朝鮮人トガ絶對平等トナルノ理ナキニモ拘ラズ斯ル同率ノ加俸ヲ突然支給スルハ近キ將來ニ於テ内地人側ヨリ不平又ハ反對運動起ルベク、之ヲ收拾スルコトモ困難デアラウガ更ニ一面朝鮮人ノ判任官以下ニ迄速カニ加俸ヲ普及スルコトガ出來ナイトスレバ之レ亦相當困難ナル問題ヲ惹起スベク結局今次ノ加俸ノ支給ハ技術的ニ見テ拙劣ナルモノアリト彼等ハ考ヘテ居ル

四 第一線行政ノ實情

規格 D 4

殊ニ府邑面ニ於ケル行政滲透ノ現状如何

決戦下外地ニ於ケル第一線行政ノ實情ノ眞髓ヲ調査スルコトニ付テハ上司ノ内命モアリ且又私自身ノ職柄多大ノ關心ヲ以テ可ナリ多方面ノ人々ニ會ツテ語ツタコトモアツタガ先ツ兩鮮ト西鮮地方ニ於テハ少々悲觀シタコトモアツタ、ソレハ或ル地方ノ有力者ノ話ヲ聞クト、其ノ答ヘニ曰ク今日朝鮮ノ第一線行政ハ全ク行詰リタル状態ニシテ誠ニ寒心ニ堪ヘザルモノアリト言ツタコトデアル、其ノ理由ニ曰ク、朝鮮ニハ昭和十六年頃ヨリ、コレニハ「韓國以上」ト云フ合言葉ガ民間ニ流行シタト云フ、原因ハ社會情勢ノ急變ト官紀ノ廢頽ニヨリ一般大衆ノ苦シミガ増加シ、遂ニ斯ル言葉ガ流行スル様ニナツタガ、先ツ舊韓國時代ニハ一部富豪ノミガ苦シミタルニ過ギズシテ一般大衆ハ寧ロ今日ノ如キ苦シミヲ體驗シタルコトガナカツタガ今日ノ現状ハ富豪ヨリモ一般大衆ガモツト苦シム様ニナツタト云フコトデアル、然シ斯ノ如キ不評判ノ原因ハ結局戰局ノ進展ニ伴ヒ色々ト複雑ナ責任ノ負荷ガ多クナツタ爲メデアリ、又此ノ複雑性ノ内容ヲ彼等ガ理解シ消化シ得ナイカラデアアルモノト思フ、即チ上意下達、下意上通ガ圓滑ニナツテナイカラデアアル

内務省

事實朝鮮ノ第一線行政ノ實情ハ四年前ニ比シ相當複雑トナツテ來テ居ル、戰局殊ニ大東亞戰爭後ニ於ケル戰局ノ進展ニ伴ヒ朝鮮ニハ各種ノ警務實務ガ新ニ負荷サレテ來テ居ルコトハ事實デアアル、今其ノ主ナルモノノミヲ舉グルモ

イ、食糧ヲ主トシ其ノ他數十種ニ及ブ農林畜產物ノ供出

ロ、貯金及獻金乃至獻納

ハ、勞務ノ供出

ニ、志願兵ヨリ徵兵制度

ホ、特殊鑛工物増産

ヘ、義務教育實施ト教育整備

規格 11-4

等ニシテ之等ノ施策ハ殆ンド其ノ結果ニ於テ達成セラレザルモノナキハ其ノ都度當局者ニ依ツテ半島官民ノ努力ト協力ニ對スル感謝ノ言葉ヲ以テ言明サレタ通りデアル、即チ外形ト結果ニ於テハ上部ノ意圖ハ殆ンド第一線末端機關ニ滲透シ從ツテ第一線ノ官公吏亦聖戰完遂ニ奮闘シツツアルノガ其ノ現狀デアルモノト見ルノガ普通デアラウ

然ラバ之ヲ以テ直チニ朝鮮ノ第一線行政ノ實情ハ満足スベキ狀態デアルカト云フニ決シテソウデハナイ、問題ハ其ノ結果ニ至ル迄ノ過程ト方法乃至ハ政治技術ノ如何ニアルモノト思フ、此ノ點ニ關スル限リハ上部ノ意圖ハ凡ソ末端下部ニ滲透シ居ラナイノガ今日ノ實情デアルモノト思考ス、爲ニ總督政治ニ對スル豫期セザル疑惑、不平不滿ノ生ズルコト勘シト見ルノガ正シイ調査資料ト思ハレル、故ニ斯ノ如キ原因ヲ一日モ速カニ除去スルコト朝鮮統治ラシテ本然ノ姿ニ戻シ明朗性アラシムル最大急務ナリ信ス

内務省

ルノデアアル

其ノ原因ノ主ナルモノノミヲ擧グレバ

イ、郡守ニ至ル迄ノ不滲透ノ原因

本府ニ於テハ地方第一線ノ實情ニ通曉セズ綜合的認識ヲ缺ク者ガ自己ノ分野ニミ踟躕シテ餘リニモ理論的ニノミ精微ナル立案ヲ爲シタルモノガ道ニ於テハ其ノ多クガ本府ヨリモ素質低下ナル關係ノ手ニ依リ之ヲ咀嚼スルコトナク其ノ僑移牒、セラレ郡ニ集中サレルノデアアル、(而モ本府ノ企劃者ノ中ニハ實際的經驗及識見ノ乏シキ者多ク道ノ關係中ニハ亦知的ニ低下ナル者多シ)

ロ、郡ヨリ邑面ニ至ル間ニ於ケル不滲透

郡邑面職員ノ知的不足ト素質低下等ニ加フルニ弱馬駄重のニ事務ハ之ニ集中輻輳スル結果、重點事務タルト否トニ拘ラズ平等ニ無關心トナリ研究工夫ハ殆ンドナク、且ツ又邑面財政

ノ涸渴ハ之等諸優遇方策ヲ只名目上ノモノタラシムル事ニナリ一種ノ疲勞感嫌惡感サヘ抱キ會議及上級官廳ノ監勵出張ニ依リ強調セラルル施策方法ニ關シテノミ而モ其ノ結果特ニ最終的結果、例ヘバ食糧増産供出ニ就テ謂ヘバ播種面積擴張、耕種法ノ改善等ハ之ヲ多ク報告ノ上ニ於テノミ達成シ其ノ虛偽ノ報告ニ基イテ割當テラレタル供出ノ達成ニノミ全力ヲ注ギ爲ニ民衆ヲシテ當局ノ施策ノ眞義、重大性等ヲ認識セシムルコトナク民衆ニ對シテ義ト涙ナキハ固ヨリ無理強制暴竹（食糧供出ニ於ケル毆打、家宅搜索、呼出拷問勞務供出ニ於ケル不意打的人質的拉致等）乃至稀ニハ傷害致死事件等ノ發生ヲ見ル如キ不祥事件スラアル

斯クテ供出ハ時ニ掠奪性ヲ帶ビ志願報國ハ強制トナリ寄附ハ徴收ナル場合ガ多イト謂フ

ハ、邑面ヨリ民衆ニ至ル間ノ不滲透

内務省

邑ハ面殊ニ面ハ第一線ニ於テ一般民衆トノ中間ニ立ッテ本府ノ企圖スル一切ノ施策ヲ擔當實踐スル重要ナル末端行政機關デアアルガ其ノ下ニ知識極メテ低級ニシテ國語モ理解セズ極メテ不自然ナル朝鮮語ヲ以テ記サレタル公文通牒ヲ受領シ素朴ナル思惟ノ下ニ活動スル區長ガアリ、此ノ區長ニ至リ一切ノ理論的行政施策ハ褪色サレ殆ンド其ノ政治意義ヲ消失スルニ至ルモノト思ハレル

然レバ之等ノ弊害ヲ如何ニシテ取除クカ、其ノ是正ノ方策トシテ主ナルモノヲ舉グレバ

イ、道ノ屬官級ニ知的素質ノ優秀ナル朝鮮人青年ヲ多ク増員スルコト

ロ、府、邑、面ノ職員ノ水準ヲ高ムル意味ニ於テ中等程度ノ地方行政講習所ノ如キ鍊成教育ヲ一層普及スルコト（現在ノ邑面職員ノ九割ハ小學程度）

ハ、區長ノ待遇ヲ一層改善強化シ優秀ナル人物ヲ配置スルコ
ト
ニ、本府及道ノ職員ハ質的向上ヲ計リ量的ニハ之ヲ減少スルコ
トトシ郡、邑、面殊ニ面職員ノ増員ヲ斷行スルコト
等デアルガ、要スルニ以上ノ如ク朝鮮ノ行政ハ其ノ實施過程ニ
於ケル不正確ナル方法ト政治技術ノ足ラザル所カラ本然ノ姿ヨリ
逸脱スル場合多ク爲ニ民衆ニ上層部ノ意圖以上ノ又ハ意圖セザル
重キ負擔ヲ負ハセ一般民衆ノ認識並ニ能力ガ官ノ要請ニ追ヒツカ
ヌ事ニナリ依ツテ民衆ヲシテ疑惑感、時ニハ反感ヲスラ抱カシム
ル場合ガ極メテ多イ、然シ兎ニ角表面カラ見レバ朝鮮ノ地方行政
ノ第一線ハ皮相的ニ其ノ結果ノ點ニ於テノミハ相當滲透セルモノ
ト謂フベシ

五 私立専門學校等整備ノ知識階級ニ及ボシタル影響

内務省

決戦下教育非常措置ニ依リ朝鮮ニ於ケル私立専門學校等ノ整備
ヲ行ヒタルコトニ付テ朝鮮人知識階級人等ノ意嚮ヲ調査シテ見ル
ト彼等曰ク、此ノ措置ハ朝鮮人ノ知識階級ヲ絶望的境地ニ追込ミ
朝鮮人社會ニ於ケル教育事業熱ヲ奪ヒ去ツタト云フ、蓋シソレハ
今日迄朝鮮ニ於ケル私立専門學校ガ朝鮮人知識階級ニ對シテ演ジ
タ役割機能ノ全面消滅ヲ意味スルカラデアアル、一般的調査資料ト
シテハ此ノ整備問題ニ對スル朝鮮人特ニ教育家及知識階級層ニ於
テハ極メテ不評判デアリ彼等ノ中ニハ朝鮮ノ教育政策ヲ疑フ様ニ
ナツテ來タ人々モ相當増加シテ居ル

各方面ニ於ケル影響モ極メテ多種多樣デハアルガ今其ノ重ナル
モノノミヲ舉グレバ大略左ノ通りデアル

(1)、朝鮮ノ過去ニ於テハ私立専門學校ニハ比較的素質ノ優秀ナラ
サル者及官公立學校ニ進學スルヲ好マサル者、思想的ニ不穩ナ
ル者（此トテ内地ノ私大ニ比スレバ問題ニナラヌ程素朴ナモノ

テハアルガ等ガ進學シタト云フ傾向ガアツタ、既ニ内地ノ文科系統私大ヘノ進學ノ途ガ塞ガレタ今日之等ノ學徒ハ近代文化ノ殿堂カラ閉出ラ喰ツタト考ヘル者モアリ、此ノ事情ハ理工科系統學校擴充ニヨリ專門學校生徒募集總數ニ於テ千二百名ノ増加ヲ見タトシテモ進學希望數ニ照ラシテ官公立專門學校ノ入學許可率ニ於ケル内鮮ノ差別ヲ徹底的ニ撤廢シナイ限り少シモ緩和サレルコトハナイデアラウト考ヘル者モ相當多イ様デアル

(ロ)、從來朝鮮ニ於テハ私立專門學校ガ朝鮮文化ノ維持培養上ニ於テ大キナ役割ヲ演ジタコトハ何人モ否定出來ナイ事實デアル、既ニ早クモ朝鮮語ノ教授及使用ガ全面的ニ禁止サレタル今日ニ於テ私立專門學校等ガ整備サレタルハ今後朝鮮文化ノ最も有力ナル維持培養ノ擔當者ヲ失ツタト云フノデアル、尤モ朝鮮文化ガ全部朝鮮文デ記サレ、朝鮮語ヲ語ラレルノミデナイニシテ今日迄ノ朝鮮文化ノ有方ハソウデアツタンデアリ、又現在モ尙全

内務省

朝鮮人中國語ヲ解スルモノガ僅カ一割五分ニ過ギナイ狀態ニ於テハ尙更ノコトデアルト云フ

(ハ)、元來朝鮮人社會ニハ官公立教育機關ノ不足ト相俟ツテ教育事業熱ハ相當ニ旺盛デアツタ、例ヘ貧者ト雖モ且又相當吝嗇家デモ事子弟ノ教育ニ關スルトキハ多額ノ寄附ヲ爲シ小學校ノ教育ニ於テスラ最近ハ克ク内地人ノ數倍ニ匹敵スル種々ノ負擔ニ甘ンジテ堪ヘテ來テキル實情デアリ知ラザル者ノ惱ミヲ詳ニ歴史的ニ社會的ニ經驗セル彼等トシテハ當然ナコトト思フデアラウ、殊ニ知識階級ニ於テ私立教育事業熱又ハ教育事業助成熱ハ最近一層旺盛トナツテ來タガ之等ハ此度ノ私立專門學校等ノ整備ヲ目睹シテ捨鉢的氣持ニナリ一切ノ私學事業ヘノ希望ヲ捨テタ觀ガアツテ、正ニ朝鮮人ノ經營スル教育機關ヲ奪ヒ去ツタ感ヲ與ヘタト同様ナ狀態デアル

(ニ)、從來朝鮮ノ私立專門學校ノ教授ノ多クハ外國留學又ハ内地留

學生ガ其ノ大半ヲ占メテ居タ、其教授陣ハ所謂朝鮮人知識階級ノ最高水準ニアツタコトハ否メナイ事實デアアル
而シテ立派ナ皇國臣民トシテノ最高ノ教育ヲ受ケ其レ丈ノ實力ヲ有シ乍ラモ官公立ノ大學專門學校ノ教授トナルコトヲ許サレナカツタ爲ニ朝鮮人學者ニトツテハ之等私立專門學校ノ教授タルコトガ一生聖ナル學研ノ途ニ精進シ象牙ノ塔ニ籠ル唯一ノ途デアリ且ツ學者トシテノ生活戰線デモアツタノデアアル、故ニ一面之等朝鮮人教授陣ノ總退却ハ其ノ多クガ生活ニ餘裕ナキ朝鮮人子弟ニ對シテ學者的生活ノ門戸ヲ完封シタモノト彼等ハ考ヘテ居ル

(外)、最後ニ朝鮮ニ於ケル女子專門學校ノ場合ニ就テ調査シテ見ルニ近年知識階級ノ配偶者ヲ養成提供スルト共ニ一方餘リニ先端的ナ空虛ナ虛榮心(一現在朝鮮人ノ反化程度ヲ見テ)朝鮮人大衆ニ植エ付ケ一部ノ識者並ニ大衆カラ白眼視サレタ私立女子專門學校ヲ整理シタ事ハ善惡相半バヌルト云ハレテ居ル、蓋シ其ノ整理方針ニ於テ政治的技術ノ足ラサルコト並ニ内地ノ其レニ比シ餘リニ酷ニ失シタト云フ點及ビ教授陣ノ總退却トハ男子專門學校ノ場合ニ準ジテ之モ相當惡影響ヲ及ボシテ居ル様デアアル

内務省

六、内地移住勞務者送出家庭ノ實狀

從來朝鮮ニ於ケル勞務資源ハ一般ニ豊富低廉ト云ハレテ來タガ支那事變ガ始ツテ以來朝鮮ノ大陸前進兵站基地トシテノ重要性ガ非常ニ高マリ各種ノ重要産業ガ急激ニ勃興シ朝鮮自体ニ對スル勞務事情モ急激ニ變リ從ツテ内地向ノ勞務供出ノ需給調整ニ相當困難ヲ生ジテ來タノデアアル、更ニ朝鮮勞務者ノ内地移住ハ單ニ勞力問題ニ止ラズ内鮮一體ト云フ見地カラシテ大キナ政治問題トモ見ラレルノデアアル

然シ戰爭ニ勝ツ爲ニハ斯ノ如キ多少困難ナ事情ニアツテモ國家

ノ至上命令ニ依ツテ無理ニデモ内地へ送り出サナケレバナラナイ今日デアル、然ラバ無理ヲ押シテ内地へ送出サレタ朝鮮人勞務者ノ残留家庭ノ實情ハ果シテ如何デアラウカ、一言ヲ以テ之レヲ言フナラバ實ニ慘憺目ニ餘ルモノガアルト云ツテモ過言デハナイ蓋シ朝鮮人勞務者ノ内地送出ノ實情ニ當ツテノ人質的掠奪的拉致等ガ朝鮮民情ニ及ボズ惡影響モサルコト乍ラ送出即チ彼等ノ家計收入ノ停止ヲ意味スル場合ガ極メテ多イ様デアル、其ノ詳細ナル統計ハ明カデナイガ最近ノ一例ヲ擧ゲテ其ノ間ノ實情ヲ考察スルニ次ノ様デアル

大邱府ノ幹旋ニ係ル山口縣下冲宇部炭礦勞務者九百六十七人ニ就テ調査シテ見ルト一人平均月七十六圓二十六錢ノ内稼働先ノ諸支出月平均六十二圓五十八錢ヲ控除シ殘額十三圓六十八錢ガ毎月一人當リノ純收入ニシテ謂ハバ之レガ家族ノ生活費用ニ充テラルベキモノデアル

内務省

斯ノ如ク一人當リノ月收入ハ極メテ僅少ニシテ何人モ現下ノ如キ物價高ノ時ニ之ニテ残留家族ガ生活出來ルトハ考ヘテレナイ事實デアリ、更ニ次ノ様ナコトニ依ツテ一層激化サレルノデアル
(イ)、右ノ純收入ノ中カラ若干勞務者自身ノ私的支出ガアルコト
(ロ)、内地ニ於ケル稼先地元ノ貯蓄目標達成ト逃亡防止策トシテノ貯金ノ半強制的實施及拂出ノ事實上ノ禁止等ガアツテ到底右金額ノ送金ハ不可能デアルコト

(ハ)、平均額ガ右ノ通りデアツテ個別的ニハ多寡ノ凹凸ガアリ中ニハ病氣等ノ爲赤字收入ノ者モアルコト、而モ收入ノ多イ者ト雖モ其レハ問題ニナラナイ程ノ極メテ僅少ナ送金額デアアルコト
以上ノ如クニシテ彼等トシテハ此ノ勞務送出ハ家計收入ノ停止トナルノデアリ況ヤ作業中不具癡疾トナリテ歸還セル場合ニ於テハ其ノ家庭ニトツテハ更ニ一家ノ破滅トモナルノデアル

然シ之等ノ事情ニ對スル異論モアル様デアル、即チ勞務援護ヤ

勞務協會ノコトヤ殘留家族殊ニ婦人ノ積極的活動ニ依ル收入ノ確保等ガアルデハナイカト云フノガ其レデアルガ、然シ朝鮮ノ勞務援護ニ就テ云ヘバ左ノ如キ二ツノ方法ガアルデアラウ、其ノ一ツハ隣保相助ヲ舉グルデアラウガ、之レモ朝鮮ノ農民ト勞働者ノ大衆ハ未ダ斯ル良風美俗ノ實踐者タル爲ニハ餘リニモ貧困過ギル現狀デアリ、其ノ二ハ勞務協會ノ援護デアルガ之レモ勞務者一人當リ五圓ヲ財源トスル本會ノ實情ハ之ノ豫算モ現實的ニハ宴會其ノ他ノ費用ニ充テラレテ居ル現狀デアル

更ニ殘留家族殊ニ婦女子ノ勞働ハドウデアアルカニ就テ調査シテ見ルニ、朝鮮ノ都市ニ於テノ一家支柱タリシ男子ニ殘留婦女ガ代替シ得ルコトノ出來ナイコトハ固ヨリデアアルガ農村ニ於テモ土壤ノ瘠薄性ト耕種法殊ニ農具ノ未發達、高率ノ小作料、旱水害、其ノ他各種夫役等ノ増加ノ多イ今日ニ於テハ全家族總動員シテ勞務ニ從事シ以テ漸ク家計ヲ維持シタル農民ガ戸主又ハ長男等ノ働キ

内務省

手ヲ送出シタル後婦女子ノ勞働ラシテ其ノ損失ヲ補償代替更ニ進ンデハ家計ノ好轉ヲ圖リ得ナイコトハ明白ナ事實デアツテ、此ノ點自然的條件ニ恵マレ耕種法其ノ他營農ノ發達シタル内地農村ト同一ニ考ヘルコト出來ナイノデアアル、況ヤ朝鮮農村ノ婦女子ハ其ノ九割以上ガ殆ンド無教育デアリ青少年ハ徵兵實施ト其レニ伴フ各種ノ鍊成其ノ他ノ行事ノ爲ニ實際的ニハ働手タル意義ヲ大イニ減殺サレテ居ルノデアアル

斯シテ送出後ノ家計ハ如何ナル形ニ於テモ補ハレナイ場合ガ多イ、以上ヲ要スルニ送出ハ彼等家計收入ノ停止トナリ作業契約期間ノ更新等ニ依リ長期ニ亘ルトキハ破滅ヲ招來スル者ガ極メテ多いノデアアル、音信不通、突然ナル死因不明ノ死亡電報等ニ至テハ其ノ家族ニ對シテ言フ言葉ヲ知ラナイ程氣ノ毒ナ狀態デアアル、然シ彼等殘留家族ハ家計ト生活ニ苦シミ乍ラ一日モ早ク歸還スルコトヲ待チアグンデ居ル狀態デアアル、私ガ今回旅行中慶北義城邑中

里洞金本奎東（二十三才）ナルモノガ昭和十八年七月一日北海道へ官ノ斡旋ニ依リ渡航シタ家庭ヲ直接訪問シテ調査シタルニ、最初官ノ斡旋ノ時ハ北海道松前郡大沼村荒谷瀬崎組ニ於テ本俸九十五圓、手當ヲ加ヘ合計月收百三十圓トナル見込ミトノ契約ニテ北海道ヨリ迎ヘニ來タ内地人勞務管理人ニ引率サレ渡航シタル後既ニ一年近クニナツテ主送金モナケレバ音信モナイ家ニ殘サレタ今年六十三才ノ老母一人ガ病氣ト生活難ニ因リ殆ンド頻死ノ状態ニ陥ツテ居ル實情ヲ目撃シタ、斯ノ如キ實情ハ此ノ義城ノミナラズ西鮮ハ、北鮮地方ニ極メテ多ク、之等送出家庭ニ於ケル殘留家族ノ援護ハ緊急ヲ要スベキ問題ト思ハレル

其ノ中ニモ軍方面ノ徵用者ノ中ニハ克ク家庭トノ通信、送金等ガアツテ殘留家族ニアリテモ比較的安心シ生活上ニモ左程不便ヲ感ゼザルモ、特ニ一般炭坑並ニ其ノ他會社等ノ關係ニ在リテハ右ノ如ク送出後殆ンド音信ヲ斷チ尙家庭ヨリ通信スルモ返信ナク半

内務省

年乃至一年ヲ經ルモ仕送金無キモノモアリテ其ノ殘留家族特ニ老父母ヤ病妻等ハ生不如死ノ如キ悲惨ナ状態デアアルノミナラス其ノ安否スラ案ジツツ不安感ヲ有スル者極メテ多ク、此ノ如キハ當事者ノ家庭現狀ニノミ限ラズ今後朝鮮カラ勞務者送出上大ナル影響ヲ與フルモノトシテ憂慮ニ堪ヘナイノデアアル

又假リニ朝鮮農村ニ於ケル男子勞力ニ代ツテ婦女子勤勞ヘト一層強化スルニシテモ今日ノ朝鮮婦女子ノ特殊立場ヲ没却シテ唯盲目的ニ働カス事バカリハ大イニ警戒シナケレバナラヌト思フ、即チ人口増強上重要使命ヲ持ツ婦人ノ保健問題又ハ内地婦女子ト異ツテ殆ンド無教育デアアル彼女達が良ク働ケル様ニ仕向ケル特殊施設ト對策ガナケレバナラヌ、例ヘバ共同炊事、託兒所、保健婦設置、食糧特配等ハ特ニ緊急ヲ要スル條件デアラウ

朝鮮農村ノ婦人殊ニ南朝鮮地方ノ農村婦人ハ勤勞、増産意欲ニ乏シク、又家事ト育児タデデモ力一杯デアツテ實際問題トシテ増

産へノ勤勞提供ノ餘裕モナイ實情デアル、ココニ先ツ問題トナルノハ農家ノ生活改善デアリ勤勞増産ノ意欲ヲ旺盛ナラシメ容易ニ増産勤勞部門ヘ挺身出來ル様其ノ環境ヲ作り上ゲルコトガ大切デアラウ

第一ニ増産勤勞婦人隣組隊ノ如キモノヲ組織シテ生活ノ共同化ヲ期シ家庭生活モ勤勞作業モ此ノ共同化サレタ組織ト精神ニ於テナサネバナラヌト思フ、ソシテ託兒所ヲ設ケ又保健婦ヲ成ル可ク多ク囑託シ農村妊婦ノ保護、育兒ノ輔導等ニ努メテ行ケバ或ハ朝鮮婦人モ容易ニ勞働ニ親シミ得ルデアラウト思ハレル

之レニハ從來ト異ツタ相當シツカリシタ指導者ヲ多ク必要トスルガ、更ニ託兒所、保健婦、共同炊事、食糧ノ特配等ノ指導者ヲ得ルコトガ最も大切デアルモノト思フ、然シ今日ノ朝鮮農村ノ現狀トシテ農村自体デハ到底ソウ云フ適當ナ人ヲ得ルコトハ不可能デアラウ、ココデ此ノ問題ニ對シテ眞剣ニ考ヘサセラレルコトハ

内務省

中等以上ノ教育ヲ受ケタ都會ノ女性達ガ華ヤカニ飾ツテ喫茶店カラ映画館ヘト空虚ナ生活ヲ送ル嘆ハシイ現實デアル此ノ女性等ノ胸中ニ果シテ國ヲ想ヒ非常時局ヲ認識シテ勝ツ爲ノ仕事ニ尊イ汗ヲ注グ誠ガアルカト云フ問題デアル、然シ全然ナイノデハナイガ多クノ場合生活ノ環境ガシカラシメタノデアルト思フ

故ニ此ノ際思ヒ切ツタ積極的鍊成對策ヲ樹立シテ此等ノ女性ヲ總動員シテセメテ農繁期ノ數ヶ月丈デモ農村ニ住込マセ、保健婦トシテ託兒所ノ保姆トシテ奉仕セシメレバ眞ニ婦人勞働力ノ完全ナル活用ガ可能デアルモノト思ハレル、之レハ金肥ヲ何百叭使フ以上ノ實質的效果ガアルモノト思ハレル、之レガセメテ朝鮮婦女子ノ勤勞強化指導ノ一策トモナルデアラウト信ズルノデアアル

七、朝鮮内ニ於ケル勞務規則ノ狀況並ニ學校報國隊ノ活動狀況如何從來朝鮮内ニ於テハ勞務給源ガ比較的豊富デアツタ爲ニ支那事

變動發後モ當初ハ何等綜合的計劃ナク勞務動員ハ必要ニ應ジテ其ノ都度行ハレタ、所ガ其ノ後動員ノ度數ト員數ガ各種階級ヲ通ジテ激増サレルニ從ツテ略大東亞戰爭勃發頃ヨリ本格的勞務規制ガ行ハレルニナツタノデアル

而シテ今日ニ於テハ既ニ勞務動員ハ最早略頭打ノ狀態ニ近ツキ種々ナル問題ヲ露出シツツアリ動員ノ成績ハ概シテ豫期ノ成果ヲ納メ得ナイ狀態デアル、今其ノ重ナル點ヲ擧グレバ次ノ様デアル

(イ)、朝鮮ニ於ケル勞務動員ノ方式
凡ソ徵用、官斡旋、勸勞報國隊、出動隊ノ如キ四ツノ方式ガアル

徵用ハ今日迄ノ所極メテ特別ナル場合ハ別問題トシテ現員徵用(之モ最近ノ事例ニ屬ス)以外ハ行ハレナカッタ、然シ作ラ今後ハ徵用ノ方法ヲ大イニ強化活用スル必要ニ迫ラレ且ツ其レガ豫期サレル事態ニ立到ソタノデアル

官斡旋ハ從來報國隊ト共ニ最モ多ク採用サレタ方式デアツテ朝鮮内ニ於ケル勞務動員ハ大体此ノ方法ニ依ツテ爲サレタノデアル

又出動隊ハ多ク地元ニ於ケル土木工事例ヘバ増米用ノ溜池工事等ヘノ參加ノ様ナ場合ニ採ラレツツアル方式デアル、然シ乍ラ動員ヲ受クル民衆ニトツテハ徵用ト官斡旋時ニハ出動隊モ報國隊モ全ク同様ニ解サレテ居ル狀態デアル

(ロ)、勞務給源
朝鮮内ノ勞務給源ハ既ニ頭打ノ狀態ニアルト云フノガ實狀デアラウト思ハレル

今尙餘裕ガアルト見ル向モ相當ニアルガ然シ之レハ頭數ノミヲ見、人ハ男女共ニ内地人男女ト同等ノ能力ヲ有スルモノト云フ前提ノ下ニ立ツテキル見解デアル、端的ニハ勞銀ノ想外ノ昂騰ガ其ノ一ツノ證據デアリ又朝鮮人ノ婦女子ハ潛勢力ト

シテハ存在スルガ現實ノ家計收入ヲモタラスベキ勞働力
トシテハ一般ニ評價シ得ナイ實狀ニアル、斯ノ如ク觀ジテ
來ルトキハ朝鮮内ノ勞務給源ハ非常ニ逼迫ヲ告ゲテキルト云
フベキデアル

絶對的頭數ノ上カラ見テ朝鮮ノ勞務給源方今尙豊富デアルト
云フ見解カラ更ニ男子ヲ動員スルコトハ可能デアルガ、然ル
時ハ婦女子ノミガ殘ルコトナリ朝鮮ノ特殊事情カラ其ノ實
質的勞働力ハ實ニ薄弱ナモノトナルカラ此ノ點深ク實態ノ觀
察調査ガ必要デアルモノト思ハレル

一例ヲ見ルト慶北安東郡ノ如キハ總人口十七萬人ノ内農業勞
務者ガ六萬人、一般勞務者ニ登録サレタノガ九千九百二十九
人トナツテ居ル、此ノ一般勞務者約一萬人カラハ既ニ昭和十
四年以降内地ヘ供出シタモノ六千四百二十六人、北鮮地方ヘ
略八百人合計八千人近ク既ニ送出シタルガラ殘有ノ勞

内務省

働カトシテハ極メテ僅少トナツテ居ルニモ拘ラズ今年更ニ殘
留勞務者數ヨリモ多ク内地送出ヲ命セラレテアル爲メ第一線
ニ於ケル當局者及農村ニ於テハ食糧増産上多大ナル影響ヲ及
ボスモノトシテ憂慮シタル狀態デアル

ハ、動員ノ實情

徵用ハ別トシテ其ノ他如何ナル方式ニ依ルモ出動ハ全ク拉致
同様ナ狀態デアル

其レハ若シ事前ニ於テ之ヲ知ラセバ皆逃亡スルカラデアル、
ソコデ夜襲、誘出、其ノ他各種ノ方策ヲ講ジテ人質的掠奪拉
致ノ事例ガ多クナルノデアル、何故ニ事前ニ知ラセレバ彼等
ハ逃亡スルカ、要スルニソコニハ彼等ヲ精神的ニ惹付ケル何
物モナカツタコトカラ生ズルモノト思ハレル、内鮮ヲ通ジテ
勞務管理ノ拙惡極マルコトハ往々ニシテ彼等ノ身心ヲ破壊ス
ルコトノミナラズ殘留家族ノ生活困難乃至破滅ガ屢々アツタ

カラデアアル		殊ニ西北朝鮮地方ノ勞務管理ハ全ク御話ニナラナイ程慘酷デアアル、故ニ彼等ハ寧ロ軍關係ノ事業ニ徵用サレルヲ希望スル程デアアル	
斯クテ朝鮮内ノ勞務規制ハ全ク豫期ノ成績ヲ擧ゲテキナイ、如何ニシテ圓滿ニ出動サセルカ、如何ニシテ逃亡ヲ防止スルカガ朝鮮内ニ於ケル勞務規制ノ焦點トナツテキル現状デアアル		(二)、勞 銀	
朝鮮ノ勞働力モ右ノ様ニ愈々逼迫シテキル爲如何ナル事業モ請負人ニ勞働者ヲ官公署ガ斡旋スルノデナケレバ到底事業遂行ハ不可能デアアル、故ニ個人ガ自由契約ニ依リ四苦八苦シテ勞働者ヲ雇入レルコトニナルト全ク驚ク程想外ノ高賃銀ヲ要求サレルノデアアル		反之官公署ノ事業ハ豫算其ノ他ノ關係ニテ右ノ如キ高イ賃銀ハ支拂ヘナイ、ソコデ多クハ部落聯盟ニ請負デヤラセル、故ニ朝鮮ノ部落民ハ官ノ事業ニハ殆ンド夫役（強制奉仕）ノ心構ニテ參加スルト云フ實情デアアル	
(四)、學校報國隊ノ活動狀況		朝鮮モ最近ハ勤勞教育ノ強調ニ伴ヒ學校報國隊ノ活動ハ文字通り豫期以上ノ成績ヲ擧ゲテキルガ然シソコニハ簡單ニ看過シ得ナイ種々ナ問題ガ惹起ンテキルコトモ事實デアアル、即チ	
1. 上司又ハ一般ニ對スル見物式ノ出動デ實績ノ擧ラザルモノアルコト		2. 學校ニ依ツテ勤勞ノ時間、程度ニ於テ著シキ差別ノアルコト	
3. 兒童生徒ノ個々人ノ身心ノ狀態ヲ無視シ一率ニ過重ナル勤勞ヲ課シ全ク心身疲勞シ切ツテ親達ノ憂慮惻々ナルモノアルコト			

内務省

一般ニ朝鮮ノ地方農村ニハ勤勞過重ナル場合ガ多ク極端ナ
ニナレバ三食トモ草根木皮ノ粥腹デアル爲メ体鍊ノ時間ニスラ
血率倒スル頃はナイ子供ガ勇々シクモ鋤ヤ鎌ヲ手ニシ文字通り身
ヲ粉ニシテ勤勞ニ從事シツアルノヲ目睹シ一掬ノ涙ナキヲ得ナ
イ實情デアル

朝鮮ノ勞務規制ノ現狀ト學徒報國隊ノ活動狀況ハ大略以上ノ如
クデアツテ端的ニ云ヘバ悲觀スベキ點極メテ多ク此レヲ如何ニシ
テ今後ハ正シ圓滑化サセルカニ付テ考ヘテ見ルニ勞務管理ノ根本
的革新ガ先決問題デアルコトハ云フ迄モナイ、上欄ニモ少シ述べ
テアルガ如ク一體朝鮮ニハ戰爭ニ必要ナ物資モ豊富デアリ勞働力
モ過剩スル程ニアツタノデ、之レヲ戰力化スルカ否カハ一ニカカ
ツテ勤勞管理ノ善否ニアツタノデアル、其レガ勞務管理ノ根本對
策ガ足ラナカツタ爲メニ今日早ヤ行詰リヲ示ス悲觀的狀態ニ至ッ
タコトハ誠ニ残念ト言ハサルヲ得ナイノデアル

内務省

朝鮮ノ勞務者ヲシテ眞ニ日本人トシテノ所謂玉碎的勤勞ヲナサ
シムル爲ニハ從來ノ如キ形式觀念的勤勞管理ヲ捨テ先ヅ日本人ト
シテノ國體思想ノ自覺、戰爭精神ノ興揚、特ニ彼等ニ對スル後顧
無憂ノ生活援護、勞力涵養ノ生活必需物資ノ充足等精神的生活的
ニ亘ル幾多ノ指導的條件ガ必要デアル、即チ朝鮮ノ勞務管理ハ思
想管理、生活管理ニ迄及ボサナケレバ萬全ヲ期スルコトハ不可能
デアルモノト思フ

朝鮮ニ於ケル從來ノ勞務管理ガ如何デアツタカニ就テハ其ノ現
實ノ狀況ヲ要點ダケ上欄ニ略述シテアルガ、今之レヲ詳細ニスル
ニハ相當長文ニモナルシ、又最早ヤ内外周知ノコトニ屬スル故ニ
、茲ニ更メテ蛇足ヲ付スルヲ避ケルノデアアルガ、然シ矛盾シテキ
ル二ツノ要點丈ヲ指摘シテ速ニ改善シタイノデアアル
第一ハ未ダ朝鮮ニハ尤ラユル部門ニ亘リ資本利潤ノ確保ト其ノ
増進ヲ圖ル目的ノ下ニ行ハレテ居ルコト

第二ハ自由主義者乃至ハマルクス理論ヲ肯定シカネナイ即
反資本主義的インテリニ依ツテ組織セラレテ居ルコトノ多イ
トデアル、ソウシテ此ノ二ツノ精神要點ハ必然的ニ相矛盾シ、
朝鮮ノ勞務管理擔當者ハ常ニ此ノ矛盾ノ中ニ苦惱シツツアルコト
デアル

ソコヘ最近特ニ大東亞戰爭勃發以後急ニ湧發サレタ國体主義的
大勢ノ前ニ朝鮮人ハ官民上下殆ンド戸惑ヒシツツソレ異ツタ
思想ト考ヘ方ヲ内包シツツ表面的ニ形ノ上デハ兎ニ角大勢ニ順應
シテ來タ様ニ見エルコトモ事實デアルガ然シ本當ノコトヲ云フト
勢ヒ朝鮮人ノ國体觀念戰爭挺身ハ多ク形式的ナラザルヲ得ナイ
デアリ、從ツテ幾多ノ內在的困難ヲ生シテ來テ居ル
更ニ最近ニ至リ非職業勞務、即チ徵用、學徒、女子挺身隊ノ如
キモノガ混入サレ朝鮮ニ於ケル勤勞管理ハ其ノ困難性ヲ益々加重
シテ來タ感ガスル

内務省

要スルニ朝鮮ニ於ケル勞務管理問題ノ根本對策トシテハ先ツ今
迄ノ様ナ官ノ斡旋トカ一股募集ノ如キ方法ヲヤメテ所謂皇國の制
度ヲ強化シ國民皆兵トシテノ指導精神ノ下ニ日本の給與、國体的
勤勞管理ニ戻ラナケレバナライ、即チ徵用ヲモツト強化シ一應
等シク赤子トシテノ報國性所謂同一ノ資格ト同一ノ重要性ニ、家
族主義ヲ融合シタル絶對標準ノ保證ヲ原則トシ、之レニ内鮮間ニ
於ケル特殊事情ヤ勤勞者個人ノ歴史的地位、能力、知識、技術、
勤怠、勞務量等ヲ加算條件トスルコトデアル、要スルニ原則トシ
テハ全家族ヲ養ヒ、各員ヲシテ各々其ノ性能ニ應ジテ盡忠報國ヲ
爲シ得ル迄ノ向上ヲ爲サシメ得ルコトノ絶對保證ヲ速ニ實踐シナ
ケレバナライト思ハレル
以上ヲ以テ簡單乍ラ上司ヨリ内命ヲ受ケタ調査事項ノ復命ヲ終
ルコトニスル

以上